

情報連絡員報告結果（令和6年7月）

和歌山県中小企業団体中央会

【和歌山県の業種別・前年同月比の景気動向】

		売上高	在庫回転	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業	雇用人員	業界景況
製造業	食料品製造業	↑	↑	↑	→	↑	↓	→	→	→
	繊維・同製品	↓	↓	→	→	↓	→	↓	→	↓
	木材・木製品	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	印刷	↓	→	→	→	↓	→	↓	→	↓
	化学	↓	↓	→	→	→	→	↓	↓	→
	窯業・土石	→	→	→	↓	→	→	↓	→	→
	鉄鋼・金属	↑	→	↑	↑	↑	→	→	↓	→
	その他	↓	↑	↑	→	↓	↓	↓	↑	↓
非製造業	卸売業	→	→	↑	→	→	→	X	→	→
	小売業	→	→	↑	↓	↓	↓		↓	↓
	商店街	↓	→	↑	↓	↓	→		→	↓
	サービス業	↑	X	↑	↓	↓	→		→	↓
	建設業	↓		↑	↓	↓	→		→	↓
	運輸業	↓		→	→	↓	→		→	↓

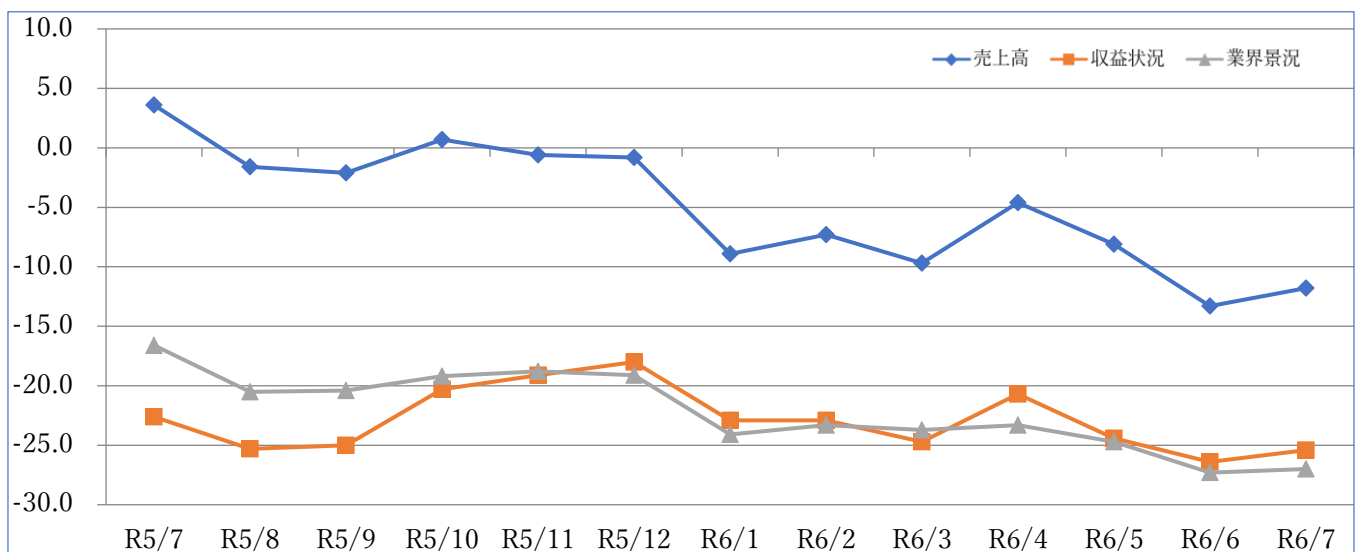
（ 増加・好転 ↑ 不変 → 減少・悪化 ↓ ）

【売上高・収益状況・業界の景況のDI値の前月からの動向】

「業界景況」のDI値は、マイナス40.0ポイントであり、前月(6月)調査と比べて不変となっている。「売上高」は2.5ポイント好転、「収益状況」は10.0ポイント悪化となっている。業界景況に関して、情報連絡員40名のうち、「好転」との回答は3名、「不変」との回答は18名、「悪化」との回答は19名であった。

【全国の景気動向】

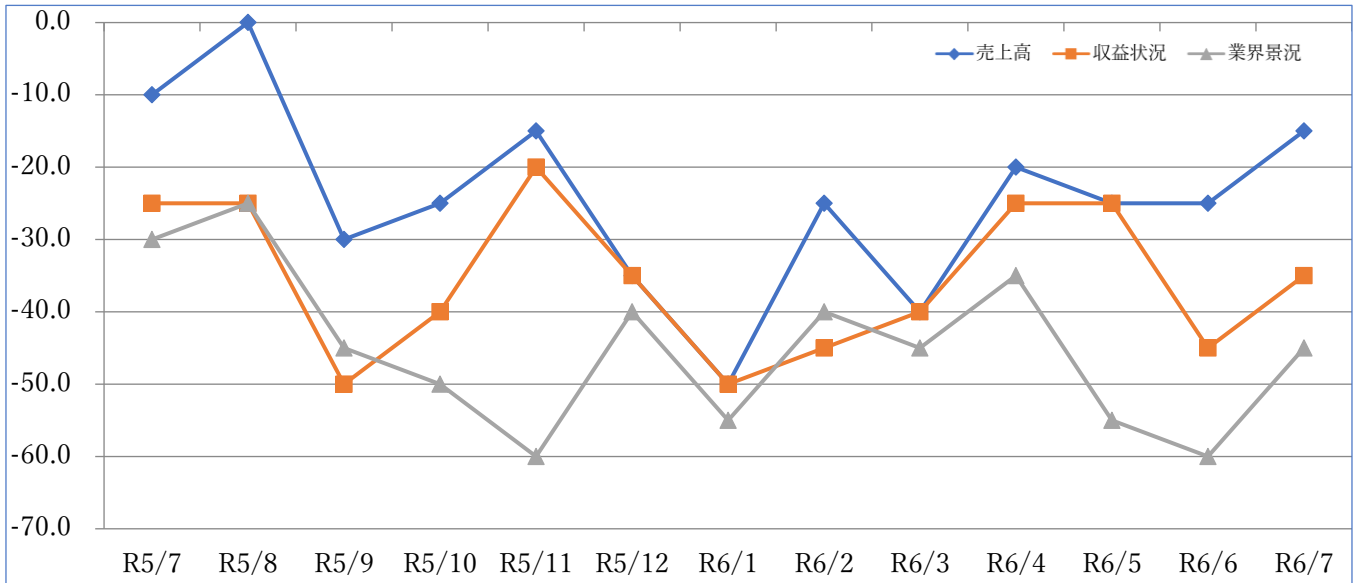
原材料・エネルギー価格の高騰、人件費の上昇等により、製造業を中心に依然厳しい経営状況ではあるが、大手自動車メーカーの認証不正問題の影響緩和や、堅調なインバウンド需要により、景況感は一部の業種で改善。しかしながら、人手不足・人材確保の問題が、依然として多くの業種で収益力の足かせとなっている。最低賃金の引き上げも相まって、賃上げの原資確保に苦慮する事業者からは、経営に与える影響を懸念する声が多く寄せられている。



### 【 県 内 製 造 業 の 動 向 】

縫製業からは、加工賃がなかなか上がらず賃金だけが上がり、収益状況が悪化している中、地域別最低賃金の上昇を危惧している状況との報告があった。

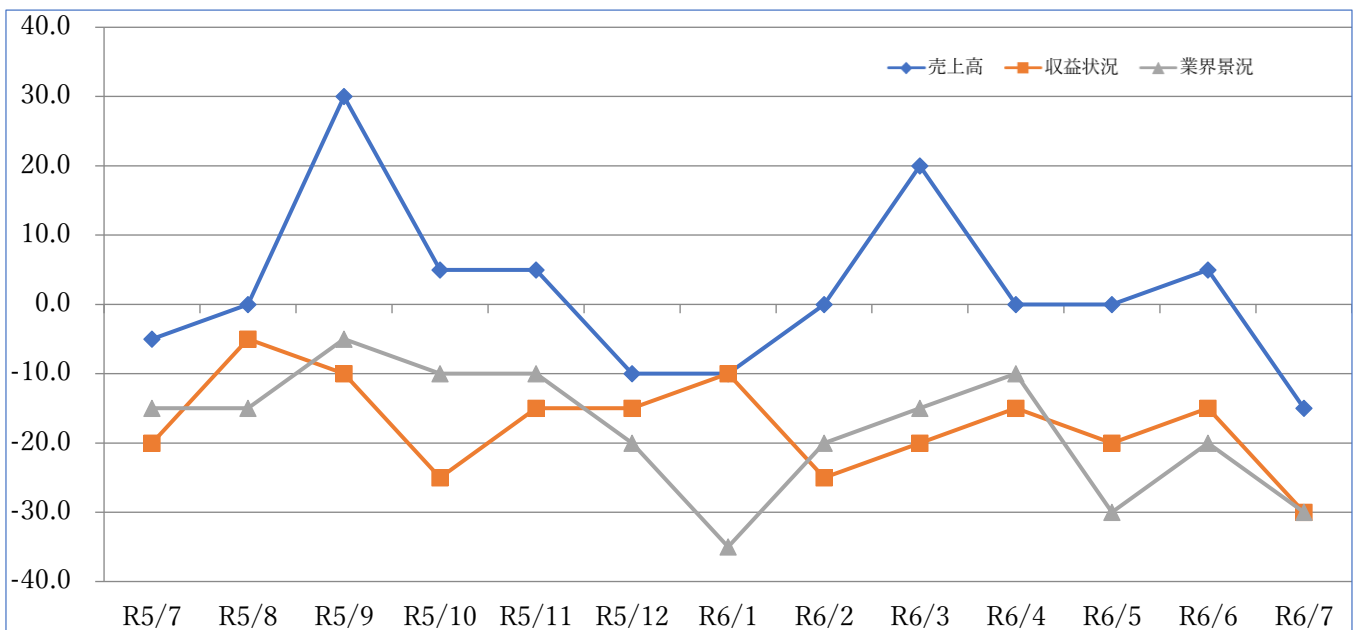
漆器製造業からは、後継者不足により製造業者が減少しており、近い将来自分たちの産地だけで製造出来なくなるのではないかと危惧しているとの報告があった。



### 【 県 内 非 製 造 業 の 動 向 】

電設資材卸売業からは、原材料と運送費の高騰、円安の影響で引き続きメーカーからの値上げ要請がきている。また、人手不足は解消されておらず、人材の確保が課題となっているとの報告があった。

生コンクリート製造業からは、串本周辺では紀勢道の延伸工事で大幅な需要増であるが、その他エリアは出荷数量が軒並み減少傾向にある。また、公共工事の件数は横ばいから増加傾向であることから、工事規模が小さくなっていると考えられるとの報告があった。



【 特 記 事 項 】

集計上の分類業種	具体的な業種	景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点
食料品	野菜漬物製造業	販売は好調であるが、不作の影響で原料不足と価格上昇が見込まれるので、業界全体の先行き不透明な状況である。
繊維工業	縫製業	6月・7月は、前年より売上が減少傾向にあり、秋冬は再減少が予想される。少子化による受注の減少が原因の一つであると考えられる。また加工賃がなかなか上がらず賃金だけが上がり、収益状況が悪化している中、地域別最低賃金の上昇を危惧している状況である。
	手袋製造業	7月の売上は前年同月とほぼ同額だった。原料糸の単価は一応安定（高止まり）しているが染色工賃やダンボール、資材関係の再値上がりの案内が届いている。前回も報告したが、今後の販売予測が立たないために、前もって上がり前の資材等を購入しておくことが難しい状況である。
木材・木製品	木材・木製品製造業（和歌山市方面）	7月のプレカット稼働率は低調ながら、やや回復している。7月の稼働率87%に対し8月は89%とやや増加の傾向であり、9割に近づいてはいるが、受注の浮き沈みが激しい。昨年7月と比較すると徐々に受注は増加傾向となっているが、市場自体に変化はなさそうである。住宅向けの加工需要もさほど変わらず、プレカット工場でも販売先が分譲などに力を入れるると一時的に忙しさは出るが、全体において受注が増えているという感じはしない。秋口までやや忙しさが出て長続きはしないとみられている。現時点では、年間需要は前年並みが精一杯で、受注と売り上げの双方で前年並みの維持を不安視しているところが多い。
	建具製造業	現在の住宅建築は価格不透明感の無いプレハブ住宅が主体となり、それに付随する住宅関連部品（建具など）については、ほぼメーカーで内製化が進んでいるため、当業界には疎遠な関係にある。このような状況下、当業界の発注先である近畿一円の工務店の着工数が激減している。
	木材・木製品製造業（プレカット工場）	製材業の加工量は横ばいであり、プレカットの生産加工量は少し増加した。また県内の原木市の単価は横ばいである。
	家具製造業	5月からの急激な落ち込みは回復しつつある。秋にかけての大阪周辺の施設改装や新築の話は多くなったが、住宅の建設が依然低迷しているようで、内装業全体の勢いはそれほどでもなく、年度後半どう動くかは不確定である。また資材価格について、1年近く上げ止まっていたが、年末までに再度値上がりがありそうなので、さらなる価格転嫁が必要である。年々夏の気温が上がって体温超えも当たり前になってきており、職場環境として工場施設内の空調設備が必要であるが面積の広い木工場では、埃の問題があり、設備費についても、数千万円以上するのに加えて毎月十萬から百万円のメンテナンス費用が必要などとても現実的ではない。40度超えの場内での労働は過酷だが対処できないでいる。
化学・ゴム	化学工業	日銀の金融政策がどうなるのか、これが影響を及ぼすドル円レートを注視している。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	串本周辺では紀勢道の延伸工事で大幅な需要増であるが、その他エリアは出荷数量が軒並み減少傾向にある。公共工事の件数は横ばいから増加傾向であることから、工事規模が小さくなっていると考えられる。
鉄鋼・金属	金属素形材製品製造業	前年同月比で、約18%の売上高増加となった。しかし、まだ先行き不透明感があり、予断を許さない状況である。
	金属製品製造業（和歌山県下）	業界全体として状況、売上高が徐々に改善されてきており、受注状況としても増加の傾向である。
その他の製造業	革製品製造業	新商品のサンプル注文も少なく、先月と変わらず厳しい状況。
	漆器製造業	後継者不足により製造業者が減少しており、近い将来自分たちの産地だけで製造出来なくなるのではないかと危惧している。
	家庭用品製造業	現年の対前月比売上高は増加した。
卸売業	電設資材卸売業	和歌山県内の業況においては、変化はなく低い水準となっている。設備投資においても低調で昨年よりも景況は悪化している。原材料と運送費の高騰、円安の影響で引き続きメーカーからの値上げ要請がきている。また人手不足は解消されておらず、人材の確保が課題となっている。

小売業	ガソリンスタンド業	県内では、過疎化が進行している。高齢者ですら減少傾向にあり、影響を受けているSSが少なくない。経営者の子供たちも都会に出ており、田舎のSSにもどって商売をしたいとは考えておらず、このままでは後継者不在により、閉店するしかなくなる。特に過疎地でのSSは欠かせないエネルギーインフラであり、地域住民のためにも、官民でSSを存続させる方策を考えていくことが必要である。
	時計・宝飾品小売業	ボーナス月だが、特に盛り上がるような手応えは感じられない。取扱商品に関しての消費は低調である。
商店街	商店街 (和歌山市内)	5月の末に老舗靴販売店が、現状破産申請中と聞いており、小売商業を取り巻く環境は依然として厳しいものがあると感じている。夏の賞与が支給されているようだが、消費より投資に回っているように感じる。令和6年路線価が発表されたが、商店街内の路線価に回復の傾向は無く中心市街地の復権活性化されていない。事業者による自助努力で出来ることは極めて限られていると感じている。
	商店街 (和歌山市内)	予約注文と配達料が少し増えたため、売上も少し増加した。
サービス業	ガス業	ガス器具販売が消費者の買い控えで思うように進まず苦戦している状況のなか、来月よりガス衣類乾燥機無料モニターキャンペーンを開始予定。ガスの仕入価格は依然下落せず、収益の悪化が続いている。
	宿泊業 (和歌山県下)	7月は前年比76%~120%の売上となっており、8月の売上予想は100%~120%と考えている。インバウンドの影響はやはり白浜、高野山地区に大きくでている。また、JR和歌山駅前のビジネスホテルは、ルートインホテルの開業による影響が出ている。
	宿泊業(白浜地区)	7月の対前年同月比の宿泊人員は97.0%、総売上高102.1%、1人当り消費単価105.2%、総宿泊料金96.8%、1人当り宿泊単価99.7%だった。2024年1月から7月の宿泊人員は549,327人で、前年同期間(2023年1月から7月)と比べると27,991人の増加である。今夏の状況は晴天続きであり、期待しているところではあったが、酷暑が影響しているのか海水浴客が例年よりも少なく感じる。
	飲食店	7月の売上及び客数は、一部の業種を除き、コロナ禍前を超えている店舗が増加しているが、まだ回復していない店舗も多く見られる。特に、猛暑の影響で、ビアガーデンや居酒屋等は、企業での利用はそこまでないものの客数が増加している。その他の飲食店はランチタイムに客数が増え、夜は業種によって落ち着いている傾向が見られる。温泉・観光地の飲食店やホテルは夏休み客やインバウンドによる外国人等により賑わっているように見えるが、ほとんど昨年と変わらない。ほとんどの店舗が、原料費の高騰が続き、従業員の人手不足と賃金の上昇により、収益は横ばいとなっている中、繁盛店は、料金への転嫁を進めている。新規創業資金及び既存店の設備投資等の借入減少が続いており、廃業店舗も増加している。既存店は、設備投資がなく、運営資金の貸付希望がほとんどである。またコロナ特別融資の元金返済にも苦慮していると思われる。
	自動車整備業 (御坊市方面)	人手不足が深刻となっており、部品代の高騰により収益状況も悪化傾向にある。
建設業	総合工事業 (田辺市方面)	令和6年7月の県工事受注額は前年同月比で、わずかに減少し92.23%となった。
	総合工事業 (新宮市方面)	公共工事の発注は全般的に昨年並みである。9月以降に生コン価格の大幅な値上げがあるようで、その影響が懸念される。
	建築用板金業	和歌山県内の建設の現状は、先月とさほど変わらず、全体的には建設投資額を筆頭に減少傾向にある。また9月頃に資材の値上げが実施されるようで受注の低迷により、倒産する企業が増加することを危惧している。建設物価は1.5倍以上になり、9月の値上がりでどうなるのか不透明である。
	電気工事業	物流の2024年問題の影響で、電設資材の配送に関しても費用の負担や人員不足による納期の問題等が表面化してきた。今後更に建設業の2024年問題と併せて大きな問題となる事は間違いないと思われる。
運輸業	道路貨物運送業 (和歌山市方面)	相変わらずの原油高は高止まりで落ち着き始めた。荷物では宅配関係の動きが鈍くなってきている印象である。
	道路貨物運送業 (有田市方面)	7月は地域内の荷動きが少なく、県外事業者からの備車依頼に対応している事業者もある。また、燃料は高値安定で収益率の低下に拍車をかけている。